

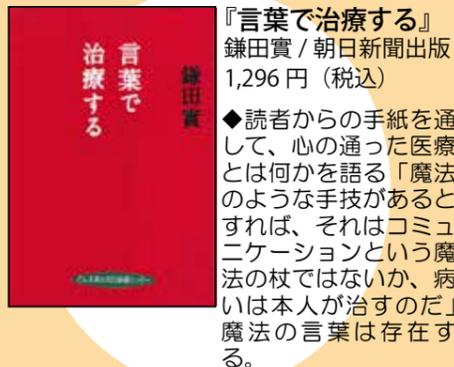
図・書・紹・介

・当センター「図書コーナー」にある本を紹介しています。
 【貸出しのお約束】・1人5冊まで ・期限：2週間 ・利用時間：9時～17時

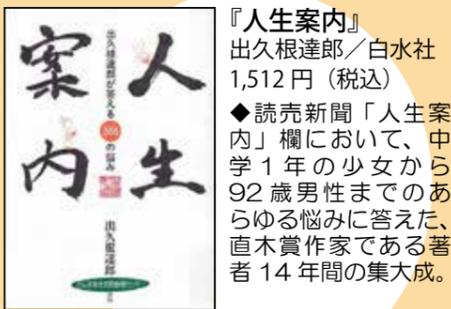
『あなたを自殺させない』
 中村智志／新潮社
 1,620円(税込)
 ◆自殺率ワースト1位だった秋田県でNPO法人を立ち上げ、「民」「学」「官」の連携によって、実際に自殺者を大幅に減らしていった佐藤久男の人生。



『言葉で治療する』
 鎌田實／朝日新聞出版
 1,296円(税込)
 ◆読者からの手紙を通して、心の通った医療とは何かを語る「魔法のような手技があるとすれば、それはコミュニケーションという魔法の杖ではないか、病いは本人が治すのだ」魔法の言葉は存在する。



『人生案内』
 出久根達郎／白水社
 1,512円(税込)
 ◆読売新聞「人生案内」欄において、中学1年の少女から92歳男性までのあらゆる悩みに答えた、直木賞作家である著者14年間の集大成。



ひとりで悩まないで...
 気軽に相談を...



女性専用電話相談です。
 相談は無料で秘密は厳守します。

●相談内容●家庭の問題の他、女性の自立や能力の発揮、性差に関する悩みなど...

とらいあんぐるん相談室

電話 027-224-5210

●相談日と時間

	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
13:00～16:00	○	○	○	○	-	-

・年末年始(12/29～1/3)、祝日は休み ・月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

●編●集●後●記●

早いもので、桜の季節ですね。センターからは、利根川の流れをバックにした桜の木が見えます。今年はその桜を見られないのがちょっと残念です。

私はセンター開設当初からお世話になりました。スタート時の事務室は、机の上に受話器があるだけでした。今、事務室を見渡して時の流れを感じています。

仕事も全ていい結果を残せたわけではありませんが、どれもみな気持ち良くさせていただけました。中でも、群馬県女性団体連絡協議会のみなさんと共催で実施した「男女共同参画フェスティバル」は、楽しかった思い出の一つです。あっという間の6年間でした。大変お世話になりました。(鶴)

仕事中心の公務員でした。退職後に、このセンターに囑託としてお世話になりました。子育ては終わってしまいましたが、できる家事は行おうと心を入れ替えました。ゴミ出しは行っていたが、片付けやゴミ集めも行っています。掃除、洗濯、料理にも手を広げました。

料理は「男の料理」本を2冊買い込んで挑戦しています。自分の好きなものを好きな味でつくる程度ですが楽しいです。ただし、妻や子どもは、なかなか料理として認めてくれません。この仕事に係わったお陰だと感謝しています。5年と7ヵ月間お世話になりました。(境)

半世紀近くも昔、社会人として職業デビューした場所が県庁だった。県の職員ではなかったが、女性職員にだけ支給されていた水色の事務服を頂いた。事務服の下はミニスカートだった。庁舎は暗くて、当然のように女子はお茶入れしていた。地下食堂では『イカ天丼』が好物だった。数年で県庁を去り幾歳月。そしてまた職業生活の最終段階の数年を県庁で過ごすことになったのはちょっと不思議なめぐりあわせ。庁舎は立派になり朝の目にまぶしい。お茶はセルフサービスになっていた。食堂でイカ天丼にはお目にかからない。あの事務服はいつ頃消えたのかしらん。(OK子)



センターのご案内



●お車でお越しの際は、県庁内「県民駐車場」をご利用ください。

●開館時間：火～金 9:00～21:00
 土・日・祝 9:00～17:00

●休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)
 12月29日～1月3日

〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12

電話 027-224-2211

FAX 027-224-2214

メール sankakuse@pref.gunma.lg.jp



【おわび】
 前号インタビュー記事において、子育てサロン「タカサキチ」の名称に誤りがございました。関係者ならびに読者の皆様に謹んでお詫びして、以下のとおり訂正いたします。
 (誤)「タササキチ」→(正)「タカサキチ」

とらいあんぐるん

ぐんま男女共同参画センター通信

2015年3月 No.35

～男女共同参画社会の実現を目指し活躍する人たち～

企画 インタビューコーナー 第10回

私たち起業しました！
 自分らしく生きるために。

昨年11月にセンターで開催した「女性のための起業入門セミナー」の受講者の中から起業を実現させた3名の方にお話を伺いました。

杉山美智子さん カフェどんぐりの森 代表

(紅茶とガラス器のお店)

六本木和泉さん Real mothers(リアルマザーズ) 代表

(事務代行・営業代行)

阿部美砂子さん Mother brain(マザーブレイン) 代表

(トータルサポートケア)



阿部さん



(左)六本木さん(右)杉山さん

起業セミナーを受講

(杉山さん) 昨年の9月に定年退職にあたり、延長しないで、あとは自分のやりたかったことをやろうと思っていました。それまでは、金融機関などに勤務しており、飲食業は全く初めての分野でとても不安でした。努力が必要なこともわかっていましたので、プロに教えていただこうとセミナーを受講しました。

(六本木さん) いつか起業したいという想いをずっと持ちながらお勤めしていました。セミナーを受講したときも何をするか具体的には決まっていなかったのですが、事業計画書の作り方やマーケティングについて、きちんと自分の中に落とし込めると思い受講しました。

(阿部さん) 心理学を学んだので、それを活かした仕事がしたいと思っていました。経営のことは何も知らなかったのですが、勉強したいと思っていました。セミナーのチラシを見て申し込みました。

介護をしながらでも

(杉山さん) 以前からガラスが好きで、小樽や沖繩に旅行に行ったときなどは、よくガラスを探していました。県内でもクオリティの高いガラス器が生産されていることを知って、ガラス器を扱うお店を開きたいと思っていました。来てくださるお客さまに紅茶でも出せたらいいなと思い、紅茶とガラス器のお店に決めました。もうすぐ93才の母を9年介護しています。起業をためらうこともありましたが、自分の人生を考えると今しかない。介護しながらでも何とかやっていけるのなら、周りの助けを受けながらやっていきたいと思いました。



らしく働くために起業したいと思ってきました。今、在宅ワークと営業代行といったアシスタントサービスを中心とした業務を行っています。育児や介護で働きに出られないママも、在宅ワークなら有効に時間を使えます。私が先にやってみて、後に続いてくる人にいいところを発信していきたいです。

人に寄り添って

(阿部さん) 心と体をトータル的にサポートする仕事をしたいと思っていました。名付けて『ハッピーライフクリエイター』。過去にこだわるのではなく、幸せな未来のイメージを描いて日々を過ごしていただけるように、一人一人に合わせた提案をしていきたいです。



(次号に続く)

起業するということは決して楽なことではないと思います。でも、3人はとても楽しそうでした。起業後の様子など熱く語っていただいた後半部分は次号のこのコーナーに掲載します。お楽しみに！